

第 73 回日本病理学会関東支部幹事会議事録

日時：平成 28 年 12 月 10 日（土） 11:00～12:00

場所：東京慈恵会医科大学 大学 1 号館 5 階講堂

出席者：内藤 善哉、北川 昌伸、近藤 哲夫、元井 紀子、大橋 隆治、横山 宗伯、矢持 淑子、九島 巳樹、森下 由紀雄、福嶋 敬宜、今井 康雄、横瀬 智之、津田 均、清水 道生、藤原 正親、増田 しのぶ、久山 佳代、中谷 行雄、伊古田 勇人（横尾 英明：代理出席）、池上 雅博（第 73 回支部会世話人）、原田 徹（第 73 回支部会世話人校担当）、亀田 陽一、（第 74 回支部会世話人）、宇於崎 宏（第 75 回支部会世話人）、川原 清子（関東支部事務局）、小野 祐子（関東支部事務局）
欠席：大橋 健一、石田 康生、小山 敏雄、柴田 亮行、横尾 英明、森 一郎、加藤 良平（敬称略、順不同）

【 審 議 事 項 】

1. 前回幹事会の議事録の承認について：内藤支部長から前回議事録の確認があり、本幹事会により承認された。
2. 幹事の交代について：内藤支部長から、新たな幹事として、久山 佳代 先生（日本大学松戸歯学部口腔病理学講座）が、美島 健二 先生に代わり、今井 康雄 先生（獨協医科大学病理診断学）が福嶋 敬宜 先生に代わり、就任されるとのご報告があった。
3. 今後の支部会開催予定について
 - ・ 第 74 回日本病理学会関東支部学術集会
（世話人：神奈川県立がんセンター 亀田 陽一 先生）
日時：平成 28 年 3 月 11 日（土）
 - ・ 第 75 回日本病理学会関東支部学術集会・平成 29 年度総会
（世話人：帝京大学医学部附属病院 宇於崎 宏 先生）
日時：平成 28 年 6 月中（日程は未定）
 - ・ 第 76 回日本病理学会関東支部学術集会
（世話人：東京医科大学茨城医療センター 森下 由紀雄 先生）
日時：平成 28 年 9 月 16 日（土）
 - ・ 病理学サマーセミナー2017 夏の学校
（世話人：昭和大学医学部病理学講座 瀧本 雅文 先生）
日時：平成 28 年 8 月 20 日（日）
4. 専門医制度、研修医認定制度に関して、北川先生より以下のご説明があった。
 - ・ 新たな専門医制度に基づき、本年度は 461 名が更新される予定である。
 - ・ 新研修プログラムについては、まず、専門医機構理事会にて整備指針（改訂版）を策定し、それを基に、各学会で、それぞれの新基準を作っていただく予定である。また、専門医機構からの借入金の申し込みに対して、病理学会は 100 万円を貸し付ける手続きを進めた。
 - ・ 近藤先生より、平成 30 年以降、採用枠が 1 名となると人員確保が困難となるので、採用枠を広げて欲しいとのご要望が出された。それに対し、北川先生から、病理医の採用枠を広げることは可能であり、後日、学会から正式なアナウンスができるよう準備するとのご返答があった。

5. 日本医療事故調査・支援センターの動向について、内藤支部長より以下の通りご報告があった：

- ・医療事故報告は昨年10月～本年9月の間で388件あり、うち157件は関東地区であった。院内調査となった161件のうち、解剖に至ったのは52件で、うち、解剖に加えてautopsy imaging (AI)を施行したのが19件あった。また解剖をせずAIのみ施行されたのが37件あった。一方、センター調査の依頼は、院内調査結果報告の1割程度であったとの説明があった。
- ・その他、福嶋先生より、医療事故に関連する解剖報告書の書式についてご質問があったが、特に特別な書式は必要ないとのこと返答が内藤支部長よりあった。また、九島先生より東京都医師会の医療事件における支援体制について、ご説明があった。

6. 支部会の午前の若手対象講習会・セミナーについて：

- ・現在、若手対象講習会・セミナーは、企業との協賛で行っているが、今後も協賛を続けていくかどうかは、企業側と話し合いが必要であるとの意見が内藤支部長から出された。協賛金などの対応に関しては、他支部の状況を調査予定である。また、午前中からセミナーを行う場合、託児所も併せて準備したほうがよいのではとのご意見が矢持先生より出された。

7. AMEDの研究支援事業について内藤支部長より以下の通りご報告があった：

- ・AIを使用した診断システムを利用するプロジェクト（深山先生が主導）の研究費の申請について簡単な説明があった。

8. その他：

- ・横山先生より、サマーセミナーだけでなく、通常の関東支部会でも学生が自由に参加できるような仕組みを作るべきだとのこと意見が出された。
- ・横瀬先生より、企業協賛の費用、会計を支部会の会計に組み込むか、別の会計としたほうがよいのかご質問があったが、今後どのようにすべきか議論していく。
- ・増田先生より以下のご指摘あり：医療事故調査の際、一般人（警察などの医療関係以外の人達）は、日本病院協会の『院内事故調査の手引き』を参考にしているとの参考意見があった。
- ・病理学会から出されている各種検体の取扱い規定（ゲノム研究用など）や病理検体処理ガイドラインなどに関し、裁判などで用いられる可能性について意見交換があった。

【 報 告 事 項 】

1. 第72回日本病理学会関東支部学術集会在、平成28年9月24日（土）東邦大学医療センター 大森病院 渋谷 和俊 先生のお世話により開催された。
2. 第73回日本病理学会関東支部学術集会、第137回東京集談会在、平成28年12月10日（土）東京慈恵会医科大学 病理学講座 池上 雅博 先生のお世話により開催される。

議事録署名人

副支部長

元井 紀子

北川 昌伸